

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原一丁目2番4号
自己評価作成日	平成28年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成28年11月30日	評価結果確定日	平成29年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アットホームな雰囲気、スタッフは入居者や御家族と信頼関係を築ける様心掛けています。 2. 医療との連携を図り入居者様とその御家族の意思を尊重し、最期まで支援して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>交通の便が良く、建物の前には広い駐車場があり、災害時の避難場所となっている。1階がグループホーム、2階から5階までが有料老人ホームであり、行事や勉強会など合同で行っているため、利用者や職員同士が顔見知り、馴染みの関係となっている。職員が生き生きと働ける環境にあり、資格取得への時間を調整したり、外部研修への参加を促すなど、利用者へのサービスの質の向上につなげている。利用者は、医療連携について、緊急時の際も24時間連絡可能であること、また、職員が笑顔で接することにより、日々穏やかに安心して過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で理念を共有し実践につなげている。	管理者、職員は理念である「人間尊厳、自立支援、安心安らぎ」を月1回のミーティングにて唱和している。3つの目標について達成できたかを話し合い、また、日々のケアの向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が御高齢で日常的に交流は難しく出来ていない行事等がある時はできる範囲で参加している。	事業所は地域の定例会議に可能な限り参加し、地域資源の把握に努めている。利用者は小学校の運動会、JAのふれあい祭りに参加するなど、近隣の方と顔の見えるつながりが可能となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法の周知への為、スタッフや地域のご家族に対して認知症サポーター養成講座をホームで開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実際や状況報告しテーマを持って意見交換を行っている。	利用者家族、地域住民、民生委員、町内会副会長、地域包括支援センター担当者の参加があり、2か月に1回開催している。マイナンバー制度や消費者被害についてなど、毎回テーマを決めて参加者が解り易いようクイズ形式で学習し、また、ケアサービスの向上に向けての率直な意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月1回運営推進会議に参加して頂き施設の現状把握してもらっている。又、包括の方からは地域の情報を受けている。	市町村担当者に事業所の取り組み、利用者の暮らしぶりなどを、継続して報告している。近隣に地域包括支援センターがあり、相談や情報交換を行い、担当者に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束をしていないが建物の構造上やむをえないので施錠をしている。御家族に入所時に同意を得ている。	「基本的に拘束はしないケア」を実施している。職員は交替で外部研修に参加し、また、内部研修やミーティングの中で伝達講習することで、身体拘束によって利用者に与える精神的苦痛を理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止法について研修会等参加し、知識を高め防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について問い合わせ、質問があればパンフレットを見ながら説明することが出来る。ホームでは現状2名活用している。権利擁護に関してはスタッフに研修参加させている。	現在3名の利用者が制度を活用している。地域包括支援センター担当者より、9月の運営推進会議の中で地域住民と職員を対象に制度について説明があり、理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に見学や説明を行っており、入居希望の方又は、その御家族の方に理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族の方とコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、その都度意見・要望も言って頂き取り入れる様努めている。	年2回家族会が開催され、家族間のコミュニケーションも図られている。運営推進会議に家族が参加されているため、利用者や家族の意見・要望を直接聞いて、ミーティングで話し合い、反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の日常の業務の中やミーティングで職員の意見を聞いている。主任会において同様に意見を交換している。	管理者はミーティングや勉強会の中でも職員が話しやすい雰囲気づくりをしている。業務の中で相談、意見、要望があればその都度対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働きやすい環境にし研修会、勉強会等にも参加させ、向上心やスキルアップに努めている。また、職員の自己評価も毎年3回行い一人一人の能力評価の確認も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	研修会参加や資格取得など配慮し能力を發揮して楽しく勤務できている。採用は資格、経験、年齢、性別問わずに採用し、職員の自己の実現の為の資格の取得を促している。	自己実現の為の資格取得に関して、時間の調整を行うなどの支援をしている。また、定年後も本人の意欲があれば受け入れるなど、職員が働きやすい環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者、職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し、防止に努めている。入居者の方への人権やプライバシー、尊厳、身体拘束についてスタッフで検討を行っている。	年間の研修計画を立て、接遇教育や人権教育等を実施している。また、接遇委員会を設置し、外部の講師を招いて同法人の有料老人ホームの職員と合同で学び、声かけ、対応などに留意しつつ、日々のケアに取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は施設内外での研修を受ける機会を提供し、資格取得に関してもコミュニケーションをとりながら情報提供している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者、管理者は同業者と交流する機会があるが職員は同系列の事業所とは相互交流か、勉強会を開催しサービスの質の向上への取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なこと、要望があれば耳を傾けて安心して生活して頂けるように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安なこと、要望などを言いやすい環境を作り、信頼関係を築くように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族が今後の方向性を見極めながら他職種・関係機関と連携を取り、他サービスの利用も含めた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする物同士の関係を築き、安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常のレクリエーションや行事にご家族も一緒に参加していただいている。御家族の面会時には近況報告を随時行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、ご友人など尋ねて来られたらゆっくりと過ごしていただける場を提供している。	高齢化にともない遠方への外出は困難となっているが、利用者が大切にしてきた場所や店、近くの神社、お寺参りは要望があれば同行している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて過ごす時間帯を一緒にし、意思疎通や理解が困難であってもスタッフが介入し、入居者が笑顔で過ごせる関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設への住み替え時などは面会等に行かせて頂いている。(再入居の相談等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ一人一人に合った食事、トイレ介助などを支援している。本人の希望が聞かれた時には検討し、嫌なことや拒否がある時にはスタッフが変わる、間を置く等して意に沿えるようにしている。	高齢化にともない身体的にも重度化しているが、利用者一人ひとりに寄り添い、家族と共に食べたいもの、好きなこと(編み物、折り紙)が継続できるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント作成、これまでのサービス利用時の情報収集を行っている。入居者様や御家族との会話の中で聞き取りも行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の体調を第一に考え、現状維持、健康管理が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意志の表出が少ない為、担当者会議やカンファレンス等により、ご家族の意向を聞き、スタッフ間で意見を出し合い介護計画を作成している。	意思を表出できない利用者の思いは日々の表情よりくみ取り、また、家族より要望を聞いて、職員全員で意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録に記入し申し送りで情報提供を行っている。その都度改善し、介護計画の見直しにも活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度の状況に応じ、医療機関や看護師、職員と連携を図りながら柔軟な支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会、民生委員、包括等に参加して頂き、ホームの現状を把握してもらっている。また、ホームも地域ケア会議に参加し地域資源の把握に努めている。他にも地域ボランティアを活用し入居者様に楽しませている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方はかかりつけ医が協力病院の為、緊急時の受診や受診が出来ない時には必要時往診を受けられている。	毎月2回かかりつけ医の往診がある。また、緊急の際も24時間連絡可能であり、利用者も家族も安心している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での情報や気づきを看護職員に報告し、相談している。また指示を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院と入退院時、情報交換を行っている。また、早期に退院できるよう連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、御家族、スタッフ、本人を交えた話し合いを十分に行い、看取りを含めた今後の方針をスタッフ間で共有している。	入居の際、本人、家族と終末期の在り方について話し合っている。今までに2名の看取りを行い、現在、本人、家族の強い要望にて1名の終末期支援を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、利用者様の急変時に備えたAED研修会、心配蘇生法等の訓練や勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、施設内での消防訓練を実施し、非常時に速やかに利用者を安全に避難、誘導できるようにしている。	マニュアルを作成しており、避難場所も職員全員熟知している。地域住民、利用者家族への参加を呼びかけ、年2回消防署の協力のもと避難訓練、消火器の使い方の指導を受けるなどしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言動や行動を否定しない言葉かけや対応を心掛けている。	職員は理念でもある“人間尊厳”を念頭に置き、「人の前で恥ずかしいことは言わない、行わない、利用者一人ひとりの守るべき情報は漏らさない」を日々実践しており、さりげないケアに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望の表出や自己決定出来ない利用者様が多く、日々の表情変化を察知し見落とさないよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、業務優先にならないよう柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問理容や年に2回の訪問美容教室を利用し御家族や本人の意向に沿うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合った食事形態を工夫し、提供している。テーブル拭き等できることを一緒にしている。	朝食のみ職員が調理している。利用者一人ひとりの食事形態を工夫している。職員との共同作業は重度化により困難となっているため、テーブル拭き等できることを一緒にやっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った食事形態を支援している。又、毎日生活パターンシートに記入しているので摂取量を把握できている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自分でできる入居者様はしていただくよう声かけで支援し、出来ない方、困難な方はスタッフがやっている。又、定期的に訪問歯科往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活リズムに添ってトイレの誘導の声かけし、おむつの方は排泄パターンシートを把握し、パット交換を行っている。	昼間はトイレでの排泄を大切にし、身体機能に応じた排泄支援を行っている。表出できない利用者には時間を決めて排泄支援を実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握し、水分補給にも努めている。高齢、重度の方が多く運動への働きかけが困難な為、薬剤でのコントロール及び、腹部マッサージで対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	重度化しており一人ひとりの希望には添えないが、身体状況に応じて対応している。	週2回の入浴となっており、心地よく安心して入浴できるように、季節に応じた入浴剤を使用したり、リクライニングシャワーチェアを使用したりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の目的や用法、用量について把握している。症状の変化がある時や分からない時は主治医へ報告、医療との連携をとり服薬支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化している為、今までできていた役割ができなくなっているが、毎日1時間程度レクリエーションで体操、歌等を行い楽しく過ごせるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方が殆どではあるが季節を感じとれる様、近くの小学校に花見に行ったり、近所への散歩等を行っている。	天気の良い日は近くを散歩したり、季節に応じた花見や地域の祭りへの参加、ドライブに出かけるなど、気分転換や五感の刺激を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の為、自分の意思で買物をする事ができない為、金銭管理はホームで行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる御家族から季節折々の絵葉書が届いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ちついて過ごせるよう、音の大きさや光の強さに配慮している。毎月、季節に合った掲示物を飾るよう工夫している。	明るくて広いリビングにテーブルや椅子が配置されており、壁には職員と利用者の手作りの作品や絵画などが飾られ、利用者が過ごしやすい共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士話せるよう席の工夫をしており、独りになりたい時は居室で過ごして頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたタンス等、馴染みのある物を置いて居心地よく過ごせるよう環境作りをしている。	居室には利用者が昔から使っていたテーブルや椅子、物入れ、チェストがあり、その上に家族の写真や飾り物などが置かれ、生活感のある部屋となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手摺等を設置、自立した生活を送れるような工夫をしている。居室内も安全に移動できるよう環境整備をしている。		